

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(99)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(99)—

1. 始めに

前報(98)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は協奏曲です。

コロンビア MS-1088-VX

モーツアルト フルートとハープのための協奏曲ハ長調

モーツアルト 協奏交響曲変ホ長調

ジャン・パテロ (フルート)

ヘルガ・シュトルク (ハープ)

イエルク・ヘルバー指揮バイエルンヴェルテンベルク室内管弦楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

コロンビア盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

フルートとハープのための協奏曲は、前報(98)の同じ曲の演奏に比べるとやや抑制的で地味な演奏です。

協奏交響曲変ホ長調は、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの木管群と弦楽アンサンブルの協奏曲ですが、木管が次々とリレーしながら弦楽アンサンブルと絡み合っていきます。いかにも室内楽らしい構成で、派手過ぎず、地味過ぎず、じっくり聴かせる演奏です。録音はさほど良くありません。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上/